Management Club Report

Sept. 2008/Vol.69

Monthly Opinion　≪時流に乗らない歯科医院経営≫

かつてなかったことですか、ここ１～２年自由診療へのシフトを推し進める歯科医院が増加しています。特に会員の間においてはその傾向が顕著である気がします。時代の流れを正確に捉えた正しい選択であると思いますが、当社のコンサルティング活動や、セミナー、レポートを通しての主張が、その傾向を後押しする上で役に立ったとすれば嬉しい限りです。

さて、自由診療への傾斜が進む中で最も注意しなくてはならないことは、自費化への傾倒をどのような位置付けで考えるかということです。これは自己を見失わないために大変重要なことです。

ともすると「保険診療では食えない」とか「インプラントは儲かる」といった理由から自由診療を伸ばそうとしている歯科医院が存在しているやに感じることがありますが、このような考え方は、経営環境の変化に即応するという意味では現実的であり賢い対応であるとも言えますが、反面、功利的であり対処があまりにも刹那的であるとも言えるでしょう。

大切なことは過去・現在・未来という時代の流れの中に自らの使命と存在意義をしっかりと捉え、一本の筋道を明確に通すことではないでしょうか。

時代の流れを正確に捉えることと、単に時流に乗ることとは異なります。この違いを理解することができなければ本格的な自由診療経営を永続的に行なうことができず、景気の好不調の影響を受けやすい歯科医院へと成り下がってしまうでしょう。今月はこの点を少し掘り下げて考えてみたいと思います。

1　利益追求のために組織と人を腐らす愚

現代社会が抱える問題点１―『官製システムの行き詰まり』

今日の日本社会の最大の問題点は、大きく分けて２つあると思います。１つは、戦後創られた官製システムの行き詰まりという点と、もう１つは戦後復興の牽引役を担ってきた企業の収益力の弱体化という点です。

官製システムの行き詰まりを是正する動きは、既に１９８０年代に公共企業体を民営化することから始まりました。３公社といわれた日本国有鉄道、日本専売公社、日本電信電話公社がそれぞれＪＲ、ＪＴ、ＮＴＴとなり、その仕上